

屋島の四季

季節ごとに屋島のビューポイントがあります。ほんの一部、ご参考までに。

- 春 獅子の霊巖からの桜と瀬戸の海
- 夏 屋島山上のどこからでも映える瀬戸の海と島々
- 秋 屋島全体が紅葉し、落ち葉に覆われた風情は格別
- 冬 雪化粧の遍路道



※主なビューポイント(おすすめ撮影ポイント)は、このパンフレットの📷です。

周辺の見どころガイド



12 四国村(四国民家博物館)
四国各地から移築された古民家などが四国の原風景を再現し、訪れる人に癒しを提供してくれます。また、四国村ギャラリーでは、絵画やオリエントの美術品などを展示。季節ごとに、チューリップ、ボタン、西洋シヤクナゲ、アジサイなどが見事に花開きます。



13 屋島神社
初代高松藩主松平頼重公が東照大神(徳川家康公)の神廟を建立し、崇敬したことに基づきます。のちに、第8代松平頼儀(よりのり)公が、風光明媚な屋島山麓において新たな御宮の造営に着手し、移転完成。藩祖松平頼重公も祀られています。初夏の頃、ツツジの花が見事に咲きます。



14 相引川
屋島の南側に流れ、瀬戸内海につながる「両端に河口を持つ河川」。潮の満ち引きにあわせ、川の水の満ち引きがあることから、相引川と呼ばれるようになったとする説と、源平合戦屋島の戦いの際、源氏・平氏の双方が互いに譲らず引き分けたことを由来とする説があるようです。



15 長崎ノ鼻
長崎ノ鼻には、5世紀初頭の前方後円墳があります。また、幕末に黒船が来航して以降、海防の必要性が高まり、高松の港を守るため、砲台を築きました。県道から長崎ノ鼻へ向かう道中は、木立が繁る木のトンネル。景色の素晴らしさと達成感は、ぜひ体感してください。



16 佐藤継信の碑
源平屋島合戦中、平家の能登守教経(のこのかみのりつね)の強弓から義経をかばい、身代わりとなった佐藤継信。初代高松藩主松平頼重公は、この継信の忠死を広く世に知らせるため、碑を新しく建立したのです。お墓は牟礼町にあります。



17 安徳天皇社
一ノ谷の戦いに大敗し、平宗盛は安徳天皇を奉じて屋島に移動。檀ノ浦の入り江に位置し、後ろに険しい屋島の峰、東に八栗の山をひかえ、地の利を得たところだったので、この場所に行宮を建て、陣営をつくりました。



18 菊丸の墓
源氏の佐藤継信は、義経の身代わりとして能登守教経の強弓に倒れました。そのとき教経に仕えていた菊丸は、継信に駆け寄り、その首を切り落とそうとしたが、継信の弟忠信の弓によって倒されました。教経は、その死をあわれみ、この地に葬ったと伝えられています。



19 赤牛崎(あかばさき)
安徳天皇の内裏に攻め込もうとした源氏は、屋島が島であったことから容易に渡ることができませんでした。しかし、赤牛が渡るというのを聞き、赤牛を放ち浅瀬を知り、源氏が渡ったと伝えられています。夜中、牛の角に松明をつけて渡ったという説もあります。



20 義経鞍掛松
平家追討の命を受けた義経は、源氏の精鋭を率いて阿波の勝浦から大坂峠を越えて高松に入り、屋島を望むこの地で人馬を整え、平家の陣を攻めたと伝えられています。その時、義経がこの松に鞍をかけた休息したといわれています。

屋島の遊歩道・登山道

ゆるりウォーキングの心得

- 歩かれる際には、交通ルールを守り、安全に十分注意してください。
- このウォーキングマップは随園ですので、あらかじめ地図をご確認下さい。
- ウォーキング前後には、健康のため、しっかりとストレッチをしましょう。
- 花や木などの植物を傷つけないよう、採取することはやめましょう。
- ゴミは、必ず持ち帰らなければなりません。
- 民有地へは立ち入らないようにしましょう。
- マナーを守り楽しく歩きましょう。

📷 ビューポイント
🚻 トイレ
🚗 自動車通行可能
👟 登山道
🚶 急勾配ヤブコギ道

0 500m 1000m

瀬戸内海国立公園
史跡天然記念物「屋島」

屋島ウォーカー
屋島を歩こう!
屋島を楽しもう!

屋島 Yashima Walker

絶景
歴史
遊び



屋島の観光情報は



お問い合わせ

高松市観光交流課 TEL087-839-2416(平日8:30~17:00)

〈2020.3〉



絶景

日本で最初の国立公園「瀬戸内海国立公園」の屋島。半日をかけて山上を一周するだけで、四季を通じて瀬戸内海沿岸随一といわれる絶景をまるごと楽しめます。山歩き・ウォーキングにピッタリな屋島山上エリア。やはり、晴れた日がおすすです。



1 遊鶴亭(ゆうかくてい)
山上で最北端のビューポイント。320度の絶景パノラマを堪能しながら一休み。若き日の昭和天皇の皇太后がここでの風景を絶賛し、「遊鶴亭」と命名したといわれています。



3 獅子の靈巖(ししのれいがん)
人気No1のビューポイント。晴れの日には瀬戸大橋が見えるかも!高松港方面の断崖に突き出た大きな岩が獅子に似ていることが名の由来です。弘法大師が屋島寺を開山する際、この岩の上で祈ると沈みかけた太陽が上昇し、工事が一日で完成したという説も。(屋島寺から約0.4km)



日本夕陽・夜景百選



2 冠ヶ嶽(かんむりがたけ)
屋島南嶺の旧屋島ケーブル山上駅から東に歩くと到着。南のふもとから屋島を見上げた時に、大きな岩が飛び出ているように見えるところ。「屋島経塚」という、教典を納めるために作った塚もあります。(屋島寺から約1.2km)



4 談古嶺(だんこれい)
屋島の東側、源平合戦の古戦場「榎ノ浦」の全体を見渡せる最適ポイント。那須与一の扇的、義経の弓流しなどのエピソードに想いをはせてみては?志度湾から昇る朝日をここから見る事ができます。(屋島寺から約0.5km)



歴史

史跡天然記念物「屋島」。歴史ロマンに興味をお持ちの方なら、源氏と平家の形勢逆転を決定づけた戦いとそのエピソードを巡るのに十分な見どころがあります。ゆっくりと歩いて楽しめる距離にあります。



5 四国堂場八十八箇所第84番礼所 屋島寺(やしまし)
開基は、鑑真和上とされ、北嶺にあった伽藍をのちに弘法大師が南嶺に移したとされています。屋島寺本堂と御本尊の木造千手観音坐像、梵鐘は国の重要文化財に指定。宝物館(有料)併設。



6 葦山大明神(みのやまだいみょうじん)
昔、霧深い屋島で弘法大師が道に迷った時、蓑笠を着た老人(実は化けた屋島太郎狸)に山上まで案内されたそうです。この狸は、多くの善行をつんだため、土地の神・四国狸の総大将として祭られています。日本三狸の一つ。家庭円満、縁結び、水商売、子宝授けの神。



「甦る屋嶋城」
ダウンロードはコチラ
高松市文化財課のホームページにアクセスの上、「甦る屋嶋城」アプリをダウンロードしてください。

8 屋嶋城(やしまのき)跡
今から1,350年前、大和朝廷が唐・新羅の進行に備え、国防のために九州から都までの間の要衝に山城が築かれたことが『日本書紀』に記されています。屋嶋城もその一つ。屋嶋は古代の海上ルートの要所にあたり、山上の急峻な崖を利用して、堅牢な城が築かれました。2002年に城門が確認され、往時の姿を取り戻すべく修復工事が行われました。現地では1,350年の時を超え甦った城門や城壁を間近で見学することができ、AR技術で往時の城門を甦らせることもできます。



遊び

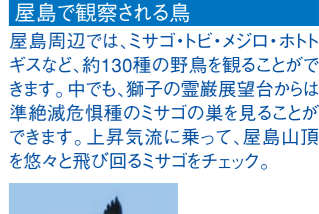
史跡天然記念物「屋島」。豊かな自然が残っているからこそ、自然探索を楽しんでいただけるのが屋島山上です。また本格的なショーが観られる水族館や、歴史スポットならではの楽しみも。家族みんなで楽しめます。



10 新屋島水族館
全国でも珍しい山の頂上にある水族館。芸達者なイルカやアシカ、アザラシのイベントはもちろん、癒し系のアメリカマナティ、カワウ・ペンギンなどに会えて楽しき満載!絶景を見下ろす屋島山上で海の動物の生態を観る、これはかなり贅沢。



11 屋島スカイウェイ・ミステリーゾーン
屋島スカイウェイでは、景色を楽しみつつ、車・自転車・徒歩で山上へ向かうことができます。道中の「ミステリーゾーン」では、不思議な感覚を楽しめること間違いなし。



屋島で観察される鳥
屋島周辺では、ミサゴ・トビ・メジロ・ホトギスなど、約130種の野鳥を観ることが出来ます。中でも、獅子の霊巖展望台からは、準絶滅危惧種のミサゴの巣を見ることが出来ます。上昇気流に乗って、屋島山頂を悠々と飛び回るミサゴをチェック。



ウォーキング
屋島には、整備された遍路道、遊歩道、登山道、古道など、数種類のルートがあります。所要時間や体力・経験などを考え、最適なコースで楽しんでください。



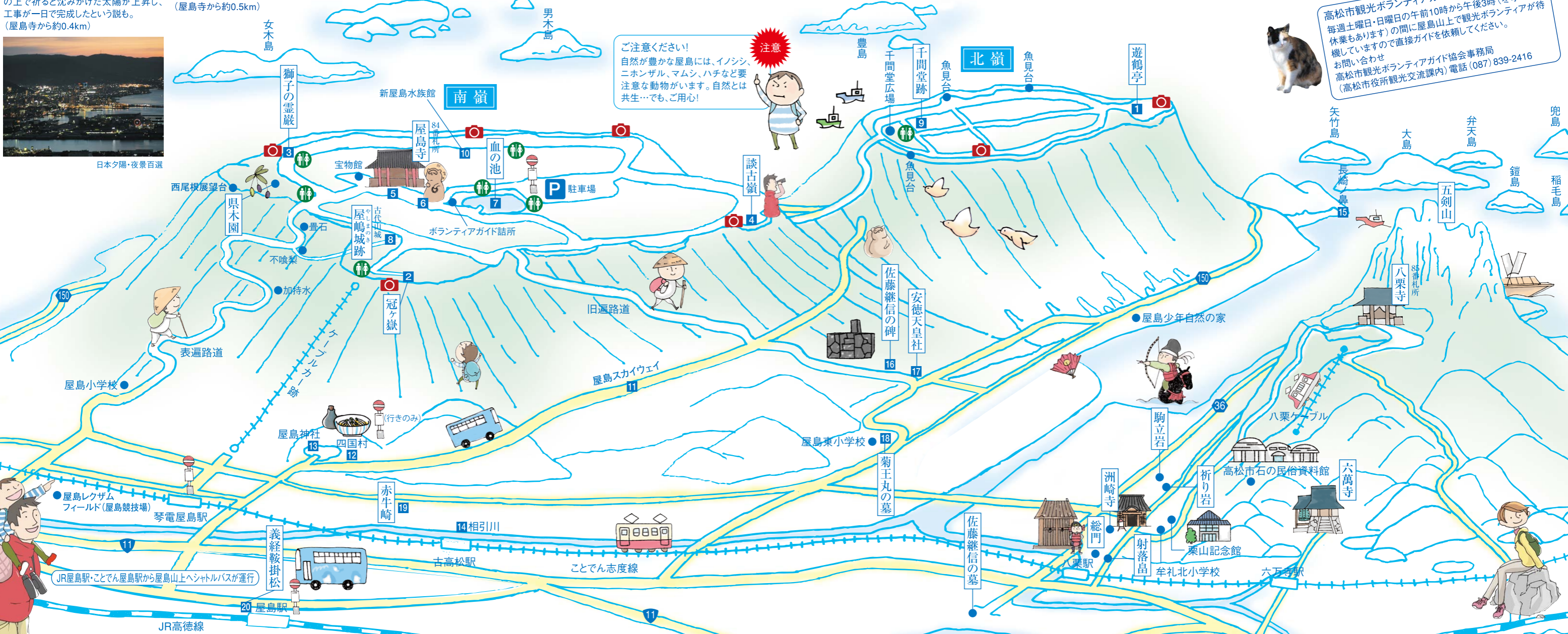
屋島名物 いいだこおでん
ゆでると8本足が末広がりになり、縁起がよさそうです。展望台からの眺めとともに、しっかりと味が染みわたるタコにカラシ味噌をたっぷりかけてご賞味ください。



屋島名物 かわらけ投げ
合戦に勝った源氏軍が陣笠を投げて勝どきをあげた故事にちなみ、小さな素焼きの土器(かわらけ)を展望台から海に向かって投げて楽しめます。受験の合格祈願にもご利益があるとか。山上のみやげもの店でお買い求めください。(6枚入り、200円)



9 千間堂跡(せんげんどうあと)
平安時代に建立された、屋島寺の前身といわれる寺院があった跡地。鑑真和上が都へ向かう途中、お堂を建てて普賢菩薩を安置したと伝えられています。仏具である多口瓶(たこうへい)の出土もあり、寺跡であったことが判明しています。



注意
ご注意ください!
自然が豊かな屋島には、イノシシ、ニホンザル、マムシ、ハチなど要注意な動物がいます。自然とは共生...でも、ご用心!

高松市観光ボランティアガイド
毎週土曜日・日曜日の午前10時から午後3時(冬季・夏季休業もあります)の間に屋島山上で観光ボランティアが待機していますので直接ガイド協会事務局お問い合わせ
高松市観光ボランティアガイド協会事務局
(高松市役所観光交流課内)電話 (087) 839-2416